



相談 **444-2343**

連絡先 【自宅】 兵庫県高砂市荒井町新浜2-19-9

E-mail: ioku3@yahoo.co.jp

TEL 079-444-2343 FAX 444-2418

URL <http://ioku.cool.ne.jp/>

いおく 井奥 まさき NEWS 【高砂市議会議員】

2008・3

3月号

(通算66号)

みどり・市民派をめざす
高砂市議会議員 井奥まさき
が皆さんにお伝えしたい情報
を書いています

市長選挙

市長選挙は4/6告示 4/13投票

高砂市議会議員

井奥まさき

加古ときはるさん市長選挙出馬を歓迎します！

■新聞報道にも関わらず、議会では逃げまくっていた副市長。最後のあいさつでようやく表明。議論を避け、ウラで動くのが好きな人ですね。

露骨なすりよりが目立った

3月議会

「次は副市長で」という安易な市長擁立劇が背景にあったのでしょうか。数を頼みにした強引な議会運営が目立った3月議会でした。私は何度も議長に対して「何をバタバタしているのですか」と問いかけたほどです。

トップの座とはいごごちの良、そして追従を産み出しやすいものなのでしょうか。

「岡後継」だけが唯一の主張で政策もない副市長に、いつの間にか前の市長を応援した議員まで露骨にすりよりを始めています。新聞報道によれば「大方の議員」だそうです。

私が前号で心配した「改革の後退」とはまさしくこのことだったのですが。

「チーム再起動」を結成

総主流派体制で無投票を狙った「大方の議員」の狙いははずれました。元議長の加古ときはるさんが立候補の意向を表明し

■加古さんの骨太政策

◎1期4年、強いリーダーシップと不退転の決意で実行
= 結果はすべて3年で出す! =

◎3年で市民病院の赤字半減 10億→5億円

◎3年で総額15億円の人件費削減

たからです。

新聞報道がされた後、私は加古さんと北野議員と鈴木利信議員とで徹底的に話し合いました。

それぞれ考えやスタイルが違ふところはあっても「今高砂市を何とかしなければ」という思いと「市民病院の再建/人件費削減が最優先課題」「強いリーダーシップの市長が必要」という政策で一致しました。

そこで市民を中心とした同じ思いの仲間とともに「チーム再起動」を3月19日に結成し、活動を始めました。

チーム再起動ではマニフェスト勉強会などを通じ、「1000の政策提言を募集」などを展開します。せつかくの機会ですから市政を考える大きなきっかけにしたいと思います。

「政策」を中心にした

市民にわかりやすい応援をします。

最終的には市長選挙では加古さんと副市長という二つの選択となります。

政策で明確に合意した後に、加古ときはるさんを正式に支援したいと思います。「政策中心」に市民に見えやすい形で判断を示したいと思うのです。ただ、選対にも入り、岡市長誕生の時よりさらに踏み込んで積極的に応援します。

あいまいな政策で「涙で票を買おうとする」候補予定者と

「勝ち馬に乗りたがる大方の市議」という現状への強い危機感からです。この勢力が勝てば、高砂市は沈没してしまいます。

【井奥の回答】

チーム再起動に政策提言しました[「保育時間延長」と「市民からの声に回答」]

市役所の返事がないのは論外ですね。加古さんいわく「会社なら顧客の声に返事しなければ潰れる」です。チーム再起動の「市民からの1000の政策提言」の一つに採用されました。

市政相談

回答しない高砂市に市民の不满爆発！

市民の声より 高砂市の保育園は預かり時間が短い

以前加古川に住んでいて保育園の預かり時間が7:30~18:30でした。高砂市の公立保育は8:00~18:00と知り隣の市でこんなに違うのだと驚きました。働くとなると8時預かりでは仕

事に間に合いません。このご時世でどうして高砂はこんなに遅れているのですか？

なんで？回答をしない高砂市

一度市に投書をしてみましたが全く回答がありません。あれは返答と言うのはないのですか？

(匿名希望の方より)

なぜ副市長に市政を任せられないか？ その1

市民病院 市民病院の赤字（年間10億円以上）に真剣にむきあわない！

放置して「財政再建団体に転落も選択肢」と副市長が発言

平成19年度は11億円以上の赤字

政策も理念もない登副市長の病院対策が3月予算議会の議論の中で浮き彫りになりました。

とりあえず「病院を残す」と発言はしたものの、迷走ぶりが際立ちました。きわめつけは「21年度以降、国の財政健全化法にのっとなって…」という発言です。これではギブアップ宣言です。「財政再建団体に転落し、夕張市の一步手前までいくということです。

予算でも議会も承認してきた「3億5000万円の特別支援」を見送り、赤字を放置しています。こんな先送りをしていると医師はあきれ果てて「立ち去り型サ

ボタージュ」をする可能性があります。

そんな大量退職の事態になっては高砂市民病院は借金を膨らませ、巨額の赤字を抱えて倒産することでしょう。一説には今急激に倒産したら、70億円が必要ともいわれています。

そんな影響も考えず、無用意な発言をして平気な副市長に病院経営をまかせたら、大変な事態になることでしょう。

思い切りと決断、説明責任こそ再建の第一条件

市民病院問題を解決するには「決断」と「市民への説明」が必要です。例えば年間5億円の赤字までは許容する、過去の赤

字は一定の範囲で特別繰り入れを認める等、新しい市長は速やかに決断を下すべきです。

特に、国が20年度に限って認める「赤字の振替債（約20億円が対象）」という支援策があります。副市長は「これを使わない」と明言しました。国や市民と厳しい議論をしながらでも借りなければ病院は破滅です。

ここでも厳しい議論から逃げる副市長の「先送り」体質が明らかになりました。

何より今必要なのは、市民病院の経営について、市民に説明し、理解してもらうことです。新市長への大きな課題となっています。

子育て日記 子どもが夜中に病気になったらどうしたらいいの？

夜間急病センター12時以降が休止

3月議会の議案勉強会で行政から説明されたので、

「加古川市の夜間急病センターが夜12時から休止らしいよ」と妻に教えてあげようと思って言ったら、「知ってる」との答え。「新聞にも出ていたし、広報に掲載されている時間も変更となっているから」と言って冷蔵庫に貼っている切り抜きを示しました。

さらに「こんなものもある」と県民共済の24時間電話相談も見せてくれました。のんきな父親はいけませんね。反省。

今回の休診で夜中の一次救急の受け皿がなくなります。

地域の診療所にも過度に頼れないでしょう。ましてや二次救急（入院の必要のある患者）用の加古川市民病院はすでにパンク状態と聞きます。

一方で軽度の患者が「見てもらえないから」と言って救急車を乱用するようなケースが増えるかもしれません。

市民病院で電話相談を新設すべき

国の医療政策の失敗の中で地域の小児医療は崩壊状態にあります。その片方で地域の力が弱くなって若い夫婦だけが取り残されているような状態の場合、夜中に子どもが熱が出ると「万が一」を心配して医師に頼ってしまいます。

その率は以前より多くなっているのではないのでしょうか。

実際、私たち夫婦も子どもが熱が出るたびにおろおろしていました。そんな時に「大丈夫よ、子どもは熱には強いもんだ」というベテランの親たちの言葉がどんなに心強かったか。でも、本当に入院の必要のある時は診療所と病院の連携で救われました。

そんなうまいバランスがとれないのでしょうか。

私は夜間の電話相談を看護師で実施できないだろうかとチーム再起動内で議論しています。s

もちろん、これは小手先です。国全体の医療政策が転換しない限り、子ども医療は崩壊します。